第３群 （活動報告）

つながりづくりの新しいアプローチ
－高校生の食育推進事業から－

○仙南保健福祉事務所（仙南保健所） 技術主査 鹿内和佳子
田村裕子，門村弘美

キーワード： コミュニケーション，タイミング，ニーズの共有

Ⅰはじめに

本年度から当県では「第３期みやぎ食育推進プラン」がスタートし，「若い世代を中心とした食育」に重点的に取り組んでいる。

これまで仙南地域においては，継続して若い世代（主に小・中学生）を中心に食育事業を推進してきたが，高校生を対象とした取り組みの機会は無かったため，今年度は高校生への取組みを実施することとなった。

従来つながりが薄かった高等学校と連携を図るために，他機関・他組織，市町にアプローチを行い，事業の実施に至ったことから，その内容について報告する。

Ⅱ活動内容

１　事業提案から実施に至るまで（表１）

高等学校との事業実施に向け，下記のアプローチを行った。（表１）

事業実施にあたっては，学校と丁寧に内容の擦り合わせを行うことでニーズを共有し，学校や対象者の負担感が最小限になるよう工夫した。また，学校の期待に対応できるよう，事業協力者・機関と連携を図った。

表1 事業概要

	宮城県Ｓ高等学校	宮城県Ｚ高等学校
アプローチ方法	来所したＳ高校生に当所企画案についてインタビュー →生の声を参考に企画案を作成し，Ｓ高等学校と調整	高校との連携実績について市町から情報収集 →献血（会場：高等学校）に協力している町有り →情報収集の帰路，Ｚ高等学校に電話連絡し，訪問
事業に対する学校の期待	・授業内で実施すると授業との連動が図れる ・学校祭前の収量がある時期 ・生徒の普段の食生活を知る機会としたい ・学校のある町の特色を知る機会としたい	・地域から学ぶ場面を積極的に作っている ・血色素量が不足して，献血不可となった生徒へ，食事等のアドバイスがあると良い ・タイミングが合えば，協力が可能
事業テーマ	野菜摂取量の増加	バランスの良い食事
実施にあたっての協力者・機関	みやぎ食育コーディネーター，大河原町，大河原教育事務所，大河原地方振興事務所	蔵王町，宮城県赤十字血液センター，大河原教育事務所，大河原地方振興事務所，当所獣疫薬事班
実施内容	１年生２クラス（各クラス１回ずつ）の「農業と環境」授業２校時を活用し，事業を実施 ・講話，演習（大河原町職員，当所職員） ・実習（みやぎ食育コーディネーター）	献血協力者の待機時間を利用した啓発 ・食生活診断（町職員，当所職員が個別相談） ・塩分クイズ ・展示（飲料類の砂糖量は町が担当）

２　実施結果

事業を実施した生徒からは「野菜の良さが改めて分かった」等の前向きな感想が多々あり，教諭からは「普段できない新鮮な体験ができ，事業をやって良かった」「次年度も継続実施したい」等の意見があった。

また，学校からの情報発信により，事業が新聞に掲載され，県民に「若い世代への食育」について広く周知する機会を得た。その後，学校から食育関連の相談がある等，事業がきっかけとなり気軽にコンタクトが取れる関係が構築されつつある。

Ⅲ考察

本事業実施に至ったポイントは，「情報収集（タイミングを逃さない）」「連携先との丁寧な調整（ニーズの共有）」「連携先ニーズへの対応（事業協力者・機関とのコミュニケーション）」と考えられた。これらは一朝一夕には醸成できないことから，普段の業務から意識する必要があり，また，「新たなつながりづくり」には，従来の枠を越えた柔軟な発想や思い切った行動も必要と考えられた。

これらは食育事業に留まらず，多くの事業に共通することから，今回の活動を通して得た視点を活用し，より一層の事業推進に努めていきたい。